

やまぎん県民ホール 新たな 県民ホールを 通して描く 山形の未来像

明日への希望が
生まれるようなホールに
していきたいですね。
やまぎん県民ホール支配人
宇山友思さん



山形の美しさを
国内外に発信できる
ホールですね。
山形交響楽団専務理事(兼)事務局長
西濱秀樹さん



2001席の大ホールは3層構造で、東北で2番目のキャパシティ。プロセニウム形式と音響反射板形式に対応。オーケストラピットもある。

YAMAGIN KENMIN HALL
やまぎん県民ホール
(山形県総合文化芸術館)
〒990-0828 山形県山形市双葉町1-2-38
☎023-664-2220(受付10:00~17:00[火~土])
<https://yamagata-bunka.jp/>

12/1(日)の大ホールお披露目式のチケットは
予定枚数の受付を終了いたしました。

——海外からの反響もあるそうですが。——
西濱 私は今年の5月に台北に行き、講演したんです。台北市立交響楽団や台北市文化局の皆さんからの第一声は「山形に新しいホールができるんですね！」でした。山形の新ホールの話題が海を越えて海外にまで渡っていることに驚くと同時にうれしく思いました。「山形の雪景色と温泉に魅力を感じている。これで、新しい楽しみが増えましたね」と話されていました。このホールは海外から山形にお越しになる皆さんにも、新たな楽しみを提供できる空間になると期待しています。

今年12月1日のプレオープンイベントを経て、来年3月に開館するやまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館)。支配人に就任する指定管理者みんぐるやまがたの宇山友思氏と、山形交響楽団(以下山響)専務理事(兼)事務局長の西濱秀樹氏にこの施設が担う役割や夢を語っていただきました。



県産木材を用い、天童木工が製作した客席椅子。座面は米織で生地には庄内刺し子の文様が織り込まれている。

——ホールが完成し、いよいよ12月のプレオープンを迎えるわけですが、このホールにどのような感想をお持ちですか。

宇山 実は今、ホール建築ラッシュで全国にかなりの数が建っています。しかしこれまでに建てられたホールの中には、使う立場から見ると残念に思う例もあるんです。だから今、やまぎん県民ホールが想像以上に素晴らしい仕上がりについて、正直とても嬉しく驚いています。

西濱 自慢したくなるほど響きもいいですね。設計者は山形県の建築家、本間利雄さんです。僕もこんなに実用的で、山形のみを兼ね備えた理想的なホールができるとは思っていませんでした。まさに山形の技術の粋であり、遺産ですよ。今後、日本を代表するホールに数えられると思います。

——収容人数も東北屈指の2001席と拡大し、場所もJR山形駅西に移りました。これによって何が変わりますか。

宇山 まず大ホールは、座席数の拡大だけでなく最先端の設備や大きな舞台(3面舞台)も備わったことで、今まで山形県内ではできなかったオペラやミュージカル、大規模なポップスのコンサートなど、上演可能なステージの幅が大きく広がりました。

西濱 山響も、舞台の広さと優れた音響のおかげで、今までできなかった大編成の作品をお届けできるようになります。他にもこのホールには「駅西の賑わい創出」という目的があるので、館内に県産品のショップやレストラン、フリースペースが設けられ、いろんな人が気軽に集えるように設計されています。そこに音楽がふわっと流れてきたら、うれしいですよ。あそこに行けば何かやっていると人々が集まるホールになると思います。

宇山まさにそのとおりで、僕たちが向き合うのは、普段こうしたホールにあまり足を運ばない人も含めた地域の皆さんです。この施設がひとつのハブとなって個人と社会、地域と地域などいろいろなつながりをつくり、それが山形に暮らす人の心を豊かにし、明日への希望を育む。そこに寄与できればうれしいです。

山形を象徴する「紅花」と「自然」をモチーフとした緞帳。意匠は奥山清行氏、製作はオリエンタルカーベット。



——宇山さんはこれまで各地の公立文化施設を運営する経験をされていますね。

宇山 はい。その前は音楽事務所などでも働いていました。その人脈や知見、ノウハウを山形で活かすのは僕の使命だと思っています。でもそれより大事なのは、山形の街や人、文化、隣県との関係性などをきちんと知ることです。それがあって初めて僕の経験が活き、山形でしかできない文化施設運営や公演が可能となります。だから今、一生懸命山形のことを勉強中です。